

東弁人権賞 受賞者決まる 1個人と2団体に

2003年度第18回人権賞の受賞者が、11月の選考委員会で決定した。表彰式は2004年の新年式で行なう。受賞者は次のとおりである。

◎ KAPATIRAN (カパティラン)

1988年発足。人道的立場に立った活動を日本・フィリピン女性スタッフが中心となって、在日・滞日外国人女性らのDV（家庭内暴力）問題、結婚・離婚問題、劣悪な労働環境問題、在留資格問題等の相談（日本語、英語、タガログ語／月あたり約300件）、各種手続のサポート（役所・入国管理局・警察・病院・裁判所等への同行、通訳、交渉等）、他のNPO諸団体や弁護士・医師・行政書士らとの連携による活動、地域の同国出身者の交流と相互扶助の促進等を行なっている。親身かつ粘り強い活動により、相談者の問題の解決と人間らしい生活の確保に尽力し、在日・滞日外国人と日本人との共生社会の実現に貢献してきた。

◎ 田中 宏氏

1937年生。龍谷大学経済学部教授。一橋大学名誉教授。40年以上にわたり、在日アジア人をはじめとする外国人の人権の問題のオピニオンリーダーの1人として、多数の著作により、当初はごく一部の人たちにしか関心が持たれていなかった日本社会における外国人差別という根深い問題を広く社



左から瀬川徹東弁副会長、平松紘選考委員会委員長、日本子孫基金の小若順一氏、田中宏氏、KAPATIRANの松田正人氏。
2003年12月5日、司法記者クラブでの記者会見にて

会に知らしめるとともに、日本における外国人の人権を獲得するための運動の最先頭に立ち、日本における国籍・民族による差別撤廃に関するすべての問題に関わり、果敢に取り組み続け、戦後日本の外国人の人権保障の前進に貢献してきた。

◎ NPO 法人 日本子孫基金

食品と暮らしの安全を守り、環境の保全を図る活動を行なう特定非営利法人。1984年に市民団体として設立以来、約20年にわたって、有害食品や環境汚染、耐性菌から子どもや赤ちゃんを守る活動等を先進的かつ広範囲に展開し、成果をあげてきた。2000年にはNPO法人となり、会員数・活動ともさらに充実させている。食品等の安全性を調査して、月刊誌、書籍、ポスター等を作成・頒布して情報を発信している。2002年に出版した「食べるな、危険！」は23万部が売れた。